



農作業メモ

農業における気象災害について

平成26年の大雪によるハウスの倒壊をはじめ、近年は気象災害が多く、農作物の収量や品質が大きく低下する場合があります。

このような中で、安定的な農業生産を維持していくためには、気象災害に的確に対応するための知識や技術的な取組が重要です。

そこで、気象災害に伴う技術対策等について簡単にまとめました。

1 近年の管内の災害発生について

表-1 近年の農業災害対策特別措置条例の災害発生

年・月	災害名	主な被害作物等
21.6	降ひょう	なす
22.8 ~9	高温・干ばつ	水稻、大豆
26.2	大雪	ハウス、農業用施設
27.7	大雨	大豆

このほかに、大雨による発芽不良、湿害、降ひょうによる茎葉や果実の損傷、果実の落果、風害による茎葉の損傷、倒伏などの被害がありました。

2 夏季から秋季の主な気象災害への対策

(1) 水稲

ア 梅雨期の長雨・豪雨対策

- ・可能な限り排水に努めます。
- ・排水後、速やかにきれいな水と入れ替え、その後、落水して根に酸素を供給し、発根を促します。

イ 台風及び強風対策

- ・深水管理にします。
- ・台風通過後に乾燥風が吹いている場合、風が弱まるまで深水を保ちます。

ウ

高温対策

- ・過繁茂では、蒸散量が多くなるので過剰な分けつにしない管理を行います。
- ・根の活力を維持するため、間断か

(2) 野菜

ア 台風及び強風対策

- ・露地野菜は、浸冠水した場合は速やかに排水を行います。
- ・病害が発生しやすいので、天候回復後速やかに薬剤防除を行います。

- ・ハウスは、点検・補修をし、必要に応じて筋交いを入れる等の補強をします。

イ 降ひょう対策

- ・茎葉傷口からの病原菌の侵入を防ぐために殺菌剤の散布を行います。
- ・草勢回復のため、液肥の葉面散布や速効性の肥料を追肥します。

ウ

高温・乾燥対策

- ・露地野菜では、敷わら、マルチフィルムを使用するとともに、苗が活着するまで積極的にかん水します。
- ・ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類が増えやすくなるので早期発見と的確な防除を行います。

3 気象情報の活用

熊谷地方気象台や気象庁のホームページでは天気予報や気候に関する情報やデータを提供しています。これらの気象情報を活用して農作物の栽培管理に役立てましょう。

表-2 熊谷地方気象台のホームページで閲覧できる天気予報・気象情報の例

時間・日数	主な気象予報
数時間	降水ナウキャスト
24時間	時系列予報
明後日まで	天気予報(通常)
1週間先まで	週間天気予報
1か月先まで	1か月予報
3か月先まで	3か月予報

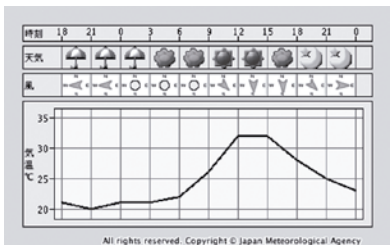


図-1 時系列予報の例 (6月ある日の18時から翌日24時までの天気)

気象庁、熊谷地方気象台のホームページから引用